

脳腫瘍摘出術における 患者用クリニカルパスの導入と有用性

三愛病院 脳神経外科病棟

三瓶知也 菊池真理 上野明美
小原琢磨 猪野裕通 富田禎之
濟陽輝久

はじめに

- 2007年4月から脳外科チーム医療が発足
- 2007年度の年間脳腫瘍手術症例数：42件
- インフォームド・コンセント、入院生活に対するスタッフの指導にばらつきが見られるようになった



クリニカルパス導入

目的

- 患者用クリニカルパスの有用性を明らかにする

研究方法

- 対象：
2008年2月1日～2008年6月30日に脳腫瘍手術を受けた患者。
アンケートに同意し、患者用クリニカルパスを使用した患者7名、使用しなかった患者10名の計17名。
- アンケート内容：
日常生活 検査・処置
点滴、注射、内服などの薬剤 情報提供
の4項目に関して、看護師の説明・技術・態度に対する満足、理解・納得の程度、実際の経過とのギャップについて行った。

アンケート用紙

	1点	2点	3点	4点	5点
看護師の説明 態度・技術	大変不満	不満	普通	満足	大変満足
理解・納得	全くできない	できない事が多い	何となくできる	大体できる	十分できる
実際の経過	全く違う	違いが多い	違いは少ない	大体合っている	違いはない

その他、何か御意見があれば記入ください

--

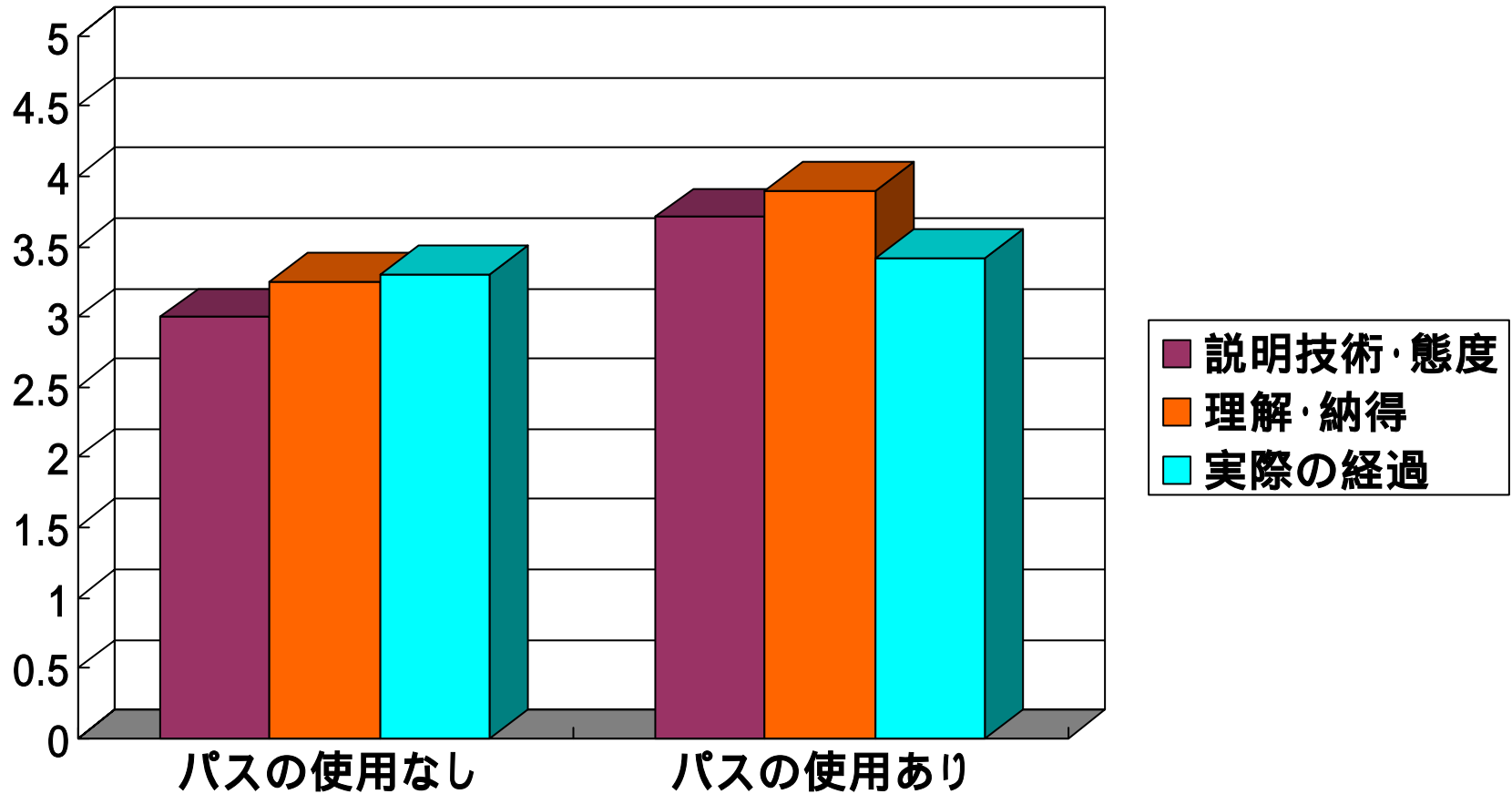
貴重なご意見ありがとうございました。

結果

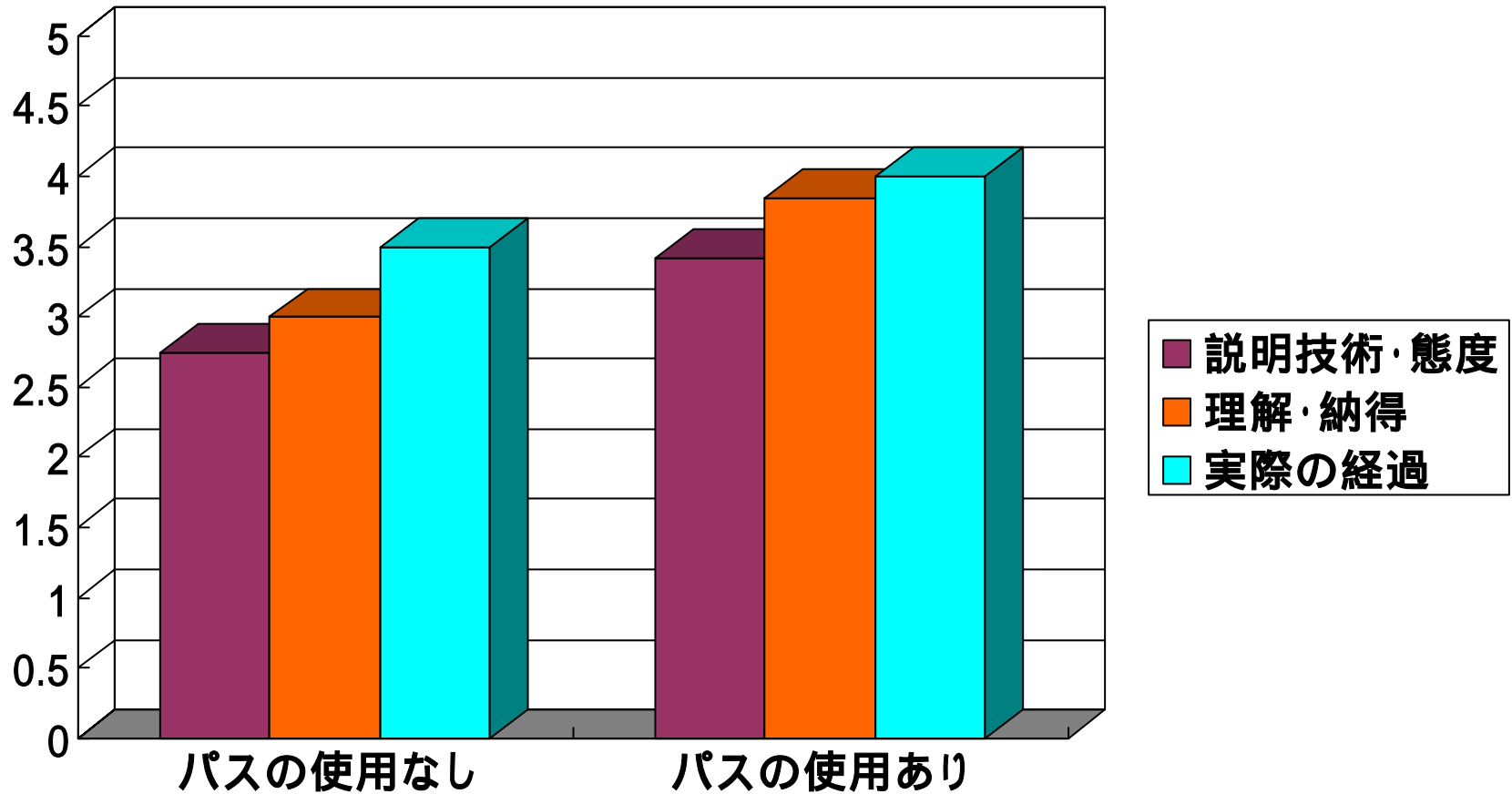
- 全項目にわたり、患者用パスを使用した例において点数の上昇が見られた。

- ・日常生活に関することでは平均0.5点の上昇
- ・検査・処置に関することでは平均0.7点の上昇
- ・薬に関することでは平均0.9点の上昇
- ・情報提供に関することでは平均0.7点の上昇

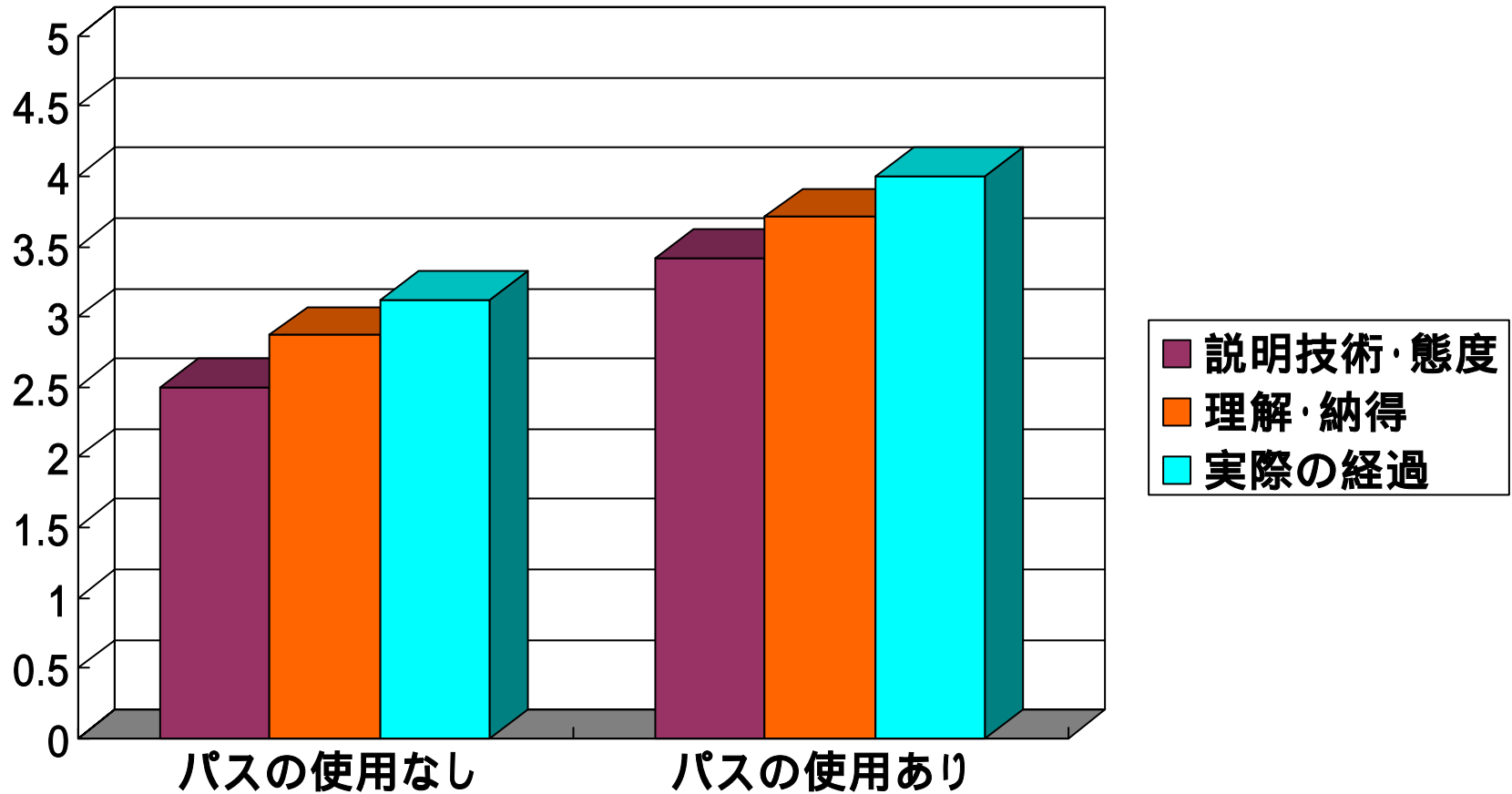
日常生活に関すること



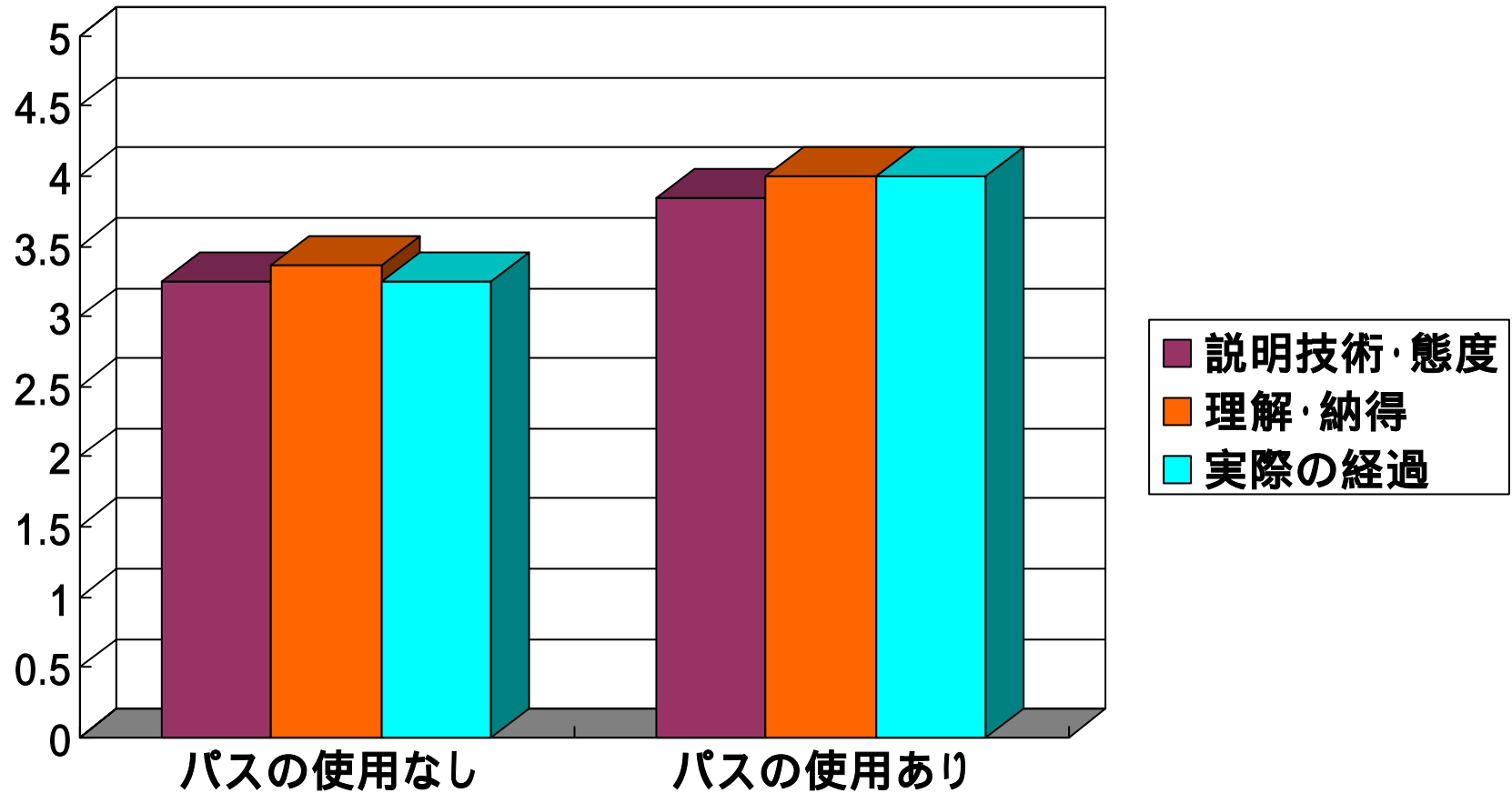
検査・処置に関すること



薬(点滴・注射・内服)に関すること

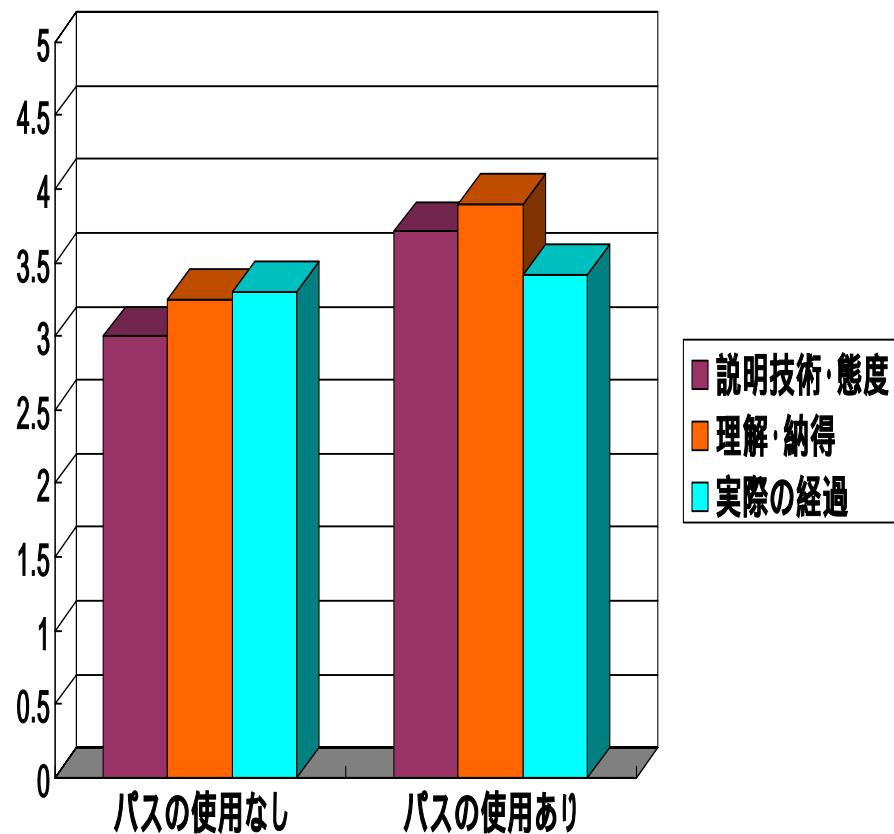


情報提供に関すること



考察

- 日常生活に関することの「実際の経過」では患者用パスの使用前後で平均点の上昇は僅か0.2点

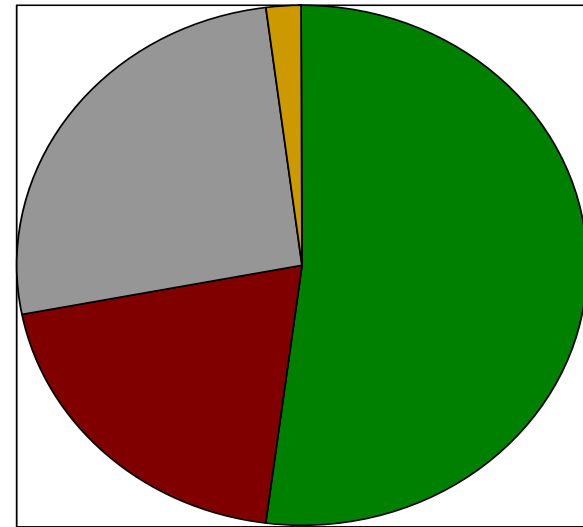


考察

- 聴神経腫瘍の症例が全体の約50%
- 聴神経腫瘍の術後は強いめまい、嘔気が生じる

パスを使用して十分に説明はしていたが、術後に自分自身でパスを確認したりするという作業が行えず、十分な評価に至らなかった、と考えられた。

患者の疾患



- 聴神経腫瘍
- 転移性脳腫瘍
- 髄膜腫
- その他

考察

- クリニカルパスは、説明の統一性という点については有効
- 域値に個人差を生じる疼痛や嘔気などについては効果が得られにくい

疼痛や嘔気といった安楽や安寧に関する症状の説明については、患者の個別性を十分に理解し、配慮することが重要

考察

- 検査・処置に関すること、薬に関すること、情報提供に関することについては、高い評価が得られた

クリニカルパス本来の利点であるインフォームド・コンセントの充実に効果を発揮している

考察

患者用クリニカルパスは患者にとっては入院という不安の多い生活に対する指標であり、症状や検査・処置を理解するための重要な情報源であるため、入院生活を送る上で必要不可欠なものである

まとめ

- クリニカルパスを導入したことで、検査・処置に関すること、薬に関すること、情報提供に関することの説明という点では評価も高く、統一性が図れたと考えられた
- 患者個々の症状という部分においては個々に介入することが必要である
- マニュアル通りに患者と関わるだけでなく、医療者自身が患者との関わりを基礎的部分から見直し、患者及び家族の意見をもとにフィードバックを行い、看護の質向上に向けて検討を続けていきたい